

# 第8回庄内町学校適正規模・適正配置審議会次第

“20～30年後を見据えて、より良い学び(学校生活)ができる持続可能な学習環境をつくる”

日時:令和5年10月20日(金)午後6時30分から

場所:庄内町役場 B棟2階 入札室

1 開 会

2 会長挨拶

3 教育長挨拶

4 前回の協議内容について …議事録の確認 [資料1](#) [資料2](#)

5 報 告

・地域意見交換会の概要について [資料3](#)

・将来に向けた小学校の整備についてのアンケートの実施と結果について

[資料4](#) [資料5](#) [資料6](#)

6 協 議

・答申(案)について [資料7](#)

7 そ の 他

8 閉 会

1. 地域意見交換会開催参加者数

学区	第一学区	第二学区	第三学区	第四学区	立川地区
開催日	8月16日（水）	8月25日（金）	8月24日（木）	8月29日（火）	8月31日（木）
開催場所	第一まちづくりセンター	第二まちづくりセンター	第三まちづくりセンター	第四まちづくりセンター	立川まちづくりセンター
参加者数	14名	22名	20名	35名	29名

2. 質問・意見

○【質問】施設に関すること。

<b>一小、二小、三小は別々に立て直す可能性もあるということか。</b>	第一学区
⇒ 一小、二小、三小は優先的に対応し、1校が望ましいというのが審議会の意見になる。	
<b>一小、二小、三小は一緒にして新築の校舎を建てるということはわかったが、四小と立小はそれぞれ新築するということか。</b>	第二学区
⇒ 仮に四小と立小はそれぞれの学校のままとした場合は、既存の校舎を長寿命化などしながら対応する予定である。	
<b>四小、立小は築何年か。</b>	第一学区
⇒ 四小が昭和51年建設で築47年経過。立小が昭和48年建設で築50年経過。余中は昭和61年建設で37年経過。立中は平成7年建設で築27年経過している。	
<b>今後のスケジュールで統合するまで8年くらいかかるようであるが、一小、二小、三小は早急な対応が必要だということであるが、建物はもつのか。一小、二小、三小は耐震性の問題はないのか。</b>	第一学区 第二学区
⇒ この3つの小学校については10年くらい前に耐震工事をしているので、耐震性に問題はない。大きな地震があった場合は、建物にまったく被害がないということあり得ないと思っている。子どもたちの命を守る、そういう建物の強度はある。新しい校舎が完成するまでは、適正な維持管理をしていく。	
<b>一小、二小、三小を1校にするということでもかなり広い敷地が必要だと思うが、建てる場所などは見通しがあるのか。</b>	第二学区
⇒ 未定です。	
<b>統合した後、既存の使わなくなった校舎はどうなるのか。</b>	立川地域 第二学区
⇒ 再利用するのは難しいと考えているので、将来的には解体することになると思うが、財政的なこともあるので、財政当局と話し合う必要がある。既存校舎の利用については今後の検討になります。	
<b>一小、二小、三小の校舎を建て壊した後は、何か建てるのか予定はあるか。</b>	第一学区
⇒ 現在の校舎の部分は学校としては使わないが、地域の避難所になっていたりするので、今後の検討が必要になる。活用の仕方は審議会では意見としてでていない。	
<b>小学校の跡地利用については、何か制限などがあるのか。</b>	第二学区
⇒ 国の補助を使って建てているが、ある程度の年数が経てば制限はない。他の施設として利用することは可能である。	
<b>一小、二小、三小は早急な対応が必要だということであるが、具体的にはどのくらい期間を考えているのか。</b>	第四学区
⇒ これから最短で段取りしても、着手してから7～8年くらいかかる想定をしている。（その間は耐震的には適切な管理をしていく）	

<b>余目中学校について、長寿命化改修をして、これから30年、40年耐えられると考えているのか。</b>	立川地域
⇒ 長寿命化改修することで、概ね30年は使えると考えている。コンクリートの躯体がしっかりしていれば、水回りなどの設備等を直せば十分使えると判断している。	
<b>小学校が一小、二小、三小と四小、立小の2校となった場合は中学校はどこに通うのか。</b>	第三学区
⇒ 審議会の中では、中学校は1校としているので、そこに通うことになると思います。	
<b>今現在の各学校、各教室の冷房設備の設置は何%になっているか。</b>	立川地域
⇒ 一部の学校の音楽室や図工室などの特別教室を除き、冷房設備は設置されている状況である。	
<b>Wi-Fi環境やエアコンなどの備品関係は使えるものは使って対応するのか。</b>	第一学区
⇒ 耐用年数などあるが、使えるものは使って対応する。	

○【質問】コストに関すること

<b>中学校の改修、小学校の新築ということで、お金はどのくらいかかるのか。</b>	立川地域 第一学区 第二学区 第三学区 第四学区
⇒ パターンを決めて試算した場合の金額になるので、段階的に統合した際は金額が変わってくる。パターン1については、一小、二小、三小が統合して1校となり新築、四小、立小はそれぞれ長寿命化改修した際の試算が43億円。パターン2については、一小から四小までが統合して1校となり新築、立小が長寿命化改修した際の試算が40億円。パターン3については、一小、二小、三小が統合して1校となり新築、四小か立小のどちらかを長寿命化改修した際の試算が35億円。パターン4については、初めから5つの小学校を統合し1校とし新築したとして試算すると33億円になる。これには、用地買収にかかる費用は含まれていない、あくまでも建物の金額の試算になる。	
⇒ 余中の長寿命化で、建物だけで約16億円。	
<b>財源はどうするのか。</b>	第一学区
⇒ 財政当局には頭出し程度しかしていない。具体的に、国の補助、町の起債の部分については今後、詰めていく内容になる。	
<b>この意見交換会を今後の審議会の検討の参考にするとのことだが、審議会の中で中学校は余目中学校を長寿命化改修で使うと話されている中で、余目中学校の長寿命化基本設計が本年度、予算化されているということはどういうことか。</b>	立川地域
⇒ 余目中学校については築35年ということで、統合して余目中学校を使うにしろ、使わないにしろ、あと数年間余目中学校を使わないといけないことになるので、その辺も踏まえ、途中で軌道修正することも考えたうえで予算化して執行している。	
<b>中学校の改修について、国の補助率が1/3から1/2に変わったようだが、余目中学校を改修する際に該当するのか。</b>	立川地域
⇒ 確認する。	

○【質問】統合に関すること

<b>小学校の学区を再編成する際に、集落単位で再編した方が、通学時間とか調整しやすいと思うが、現在の学区が最小単位というのは何か理由があるのか。</b>	第二学区
⇒ 歴史的背景や地域のつながりなどを考慮すると現学区の中での分断は望ましくないと審議会の中で話が出ている。	

<p><b>60年前くらいに余目地区では学区の編成についての議論がされた。その際、幼稚園と小学校と公民館は各地区に造り、学校教育と社会教育を一貫した地域教育の役割を果たすというような議論がされたと聞いている。審議会では、新しい庄内町の小学校を特色ある小学校にするためにどのような形が望ましいかということは審議会でも議論されたか。</b></p>	<p>第三学区</p>
<p>⇒ 幼稚園をどうするかということと一緒に議論してしまうとなかなか結論が出ないことが考えられたので、とりあえず、小学校と中学校を先に議論しようという考え方で進めてきた。そこで結論が出た場合、自ずと幼稚園の方向性も見えてくるかと思っている。また、まちづくりセンターについては、仮に小学校が統合した場合でも、今のまちづくりの単位は当面継続していくものと担当課から聞いている。審議会でも意見は出たところであるが、深くは話し合われなかった部分になる。</p>	
<p><b>状況によっては、鶴岡の藤島地域の学校や羽黒地域の学校の方が近い人が出てくるのではないかと考えるが、本来の学区以外の学校に通うことは可能なのか。</b></p>	<p>第二学区</p>
<p>⇒ 通う学校は原則、住んでいる学区の学校に通うことになるが、いじめなど重大な事情がある場合や、中学2年生、3年生、小学6年生など転居によるものは、卒業まで近いので他の学区に異動するのは可哀そうな思いをすることになるので、今までの学校に通うことが可能になっている。</p>	

○【質問】通学時間に関すること

<p><b>通学時間について30分未満が望ましいとしているが、遠くなれば、実際はもっと時間がかかる子どもがでてくると思うがその辺はどう考えているのか。</b></p>	<p>第二学区</p>
<p>⇒ 仮に小学校を現在の余目中学校付近を想定した際に、庄内町で一番遠い集落が瀬場集落になり、1時間程度かかると見込んでいる。</p>	
<p><b>小学校を1校とした際に一番遠い子どもで1時間もスクールバスに乗るようであれば無理でないか。今現在、その集落に子どもがいないとして、今後、移住なども含めて子どもがいるような状況になったらどういう対応をするのか。</b></p>	<p>第二学区</p>
<p>⇒ お子さんが学校に通う手段については町として考えていかなければならない。スクールバスを配車したり、時間が長くなるだろうという心配もあると思うが、そのような場合は、スクールバスの中での乗車時間を上手く活用した方法も考えたらどうかという意見が審議会では出ている。</p>	
<p><b>中学校が1校になった場合、一番遠い生徒は通学時間はどのくらいかかるか。</b></p>	<p>第一学区</p>
<p>⇒ 立谷沢地区の瀬場集落が一番遠い集落になり、経路の仕方もあるが、だいたい1時間くらいである。令和11年度を想定した際、子どもがいると想定される集落は鉢子という集落を想定しているが、そこからだと45分程度と想定している。</p>	
<p><b>国や県で通学時間、通学距離の基準は出しているのか。</b></p>	<p>第二学区</p>
<p>⇒ 参考資料になるが、通学距離が小学校が概ね4キロ以内、中学校が概ね6キロ以内、通学時間は概ね1時間以内となっている</p>	

○【質問】スクールバスに関すること

<b>スクールバスの乗車基準を教えてください。冬期間、暑い夏にはスクールバスの対応をお願いします。</b>	
⇒ おおよその目安で学校から3キロ以上の集落は通年スクールバスで対応。2キロ以上の集落は冬期間スクールバスの対応になっている。基準以外でも天候の状況に応じて臨時的にスクールバスの対応を行っている。	第二学区

○【質問】その他

<b>近隣市町村との連携、情報交換はしているのか。</b>	立川地域
⇒ 特に担当者レベルの話はない。遊佐町が今年度、小学校が統合したが、先進事例ということで、話を聞いて参考にしている。	第一学区 第二学区
<b>幼稚園はどうなるのか。</b>	
⇒ 人口の推移からして幼稚園についても同様の検討が必要かと考えているが、一緒に考えると協議に時間がかかってしまうと予想されたので、審議会では、まずは、小学校と中学校に関して方向性を決めてもらうよう話を進めている。	第二学区
<b>子どもたちが通いたくなるような魅力的な学校とはどのようなものを計画しているのか。</b>	
⇒ 審議会の中では、ICTなどの環境設備が整った学校など、また、運動スペースなどの確保などが挙げられている。タブレットを使った授業等もいろいろあると思うが、学校のどの場所でも通信環境が整っていて、情報を引き出したり印刷できたりなどICT化が進んだ学校、これを重点的に整備してはどうかという意見が出ている。	第三学区
<b>庄内町は教育にかけられるお金が厚いと聞いている。小学校が1校となったときに、今の庄内町の教育の良さは保たれるのか。</b>	
⇒ 学校数が減ったとしても、町当局と相談しながら教育にかけられるお金は十分確保していきたいと考えている。	第三学区
<b>部活動の移動についてはどう考えているか。</b>	
⇒ 審議会の中でも出た話になるが、今後、統合すると決まった段階でどのようなことが考えられるか、検討させていただきたい。	立川地域
<b>アンケートはどのように実施されたのか。</b>	
⇒ 令和4年6月に実施した。一般住民については20歳以上75歳以下で1000人。地域、年代、性別がバラバラになるように調整した。保護者については、保育園、認定こども園、幼稚園、小学校、中学校の保護者世帯すべて抽出し1221人。教員140人を対象にしている。	第二学区
<b>立川地域に関して、小中一貫校の話が出たと説明があったが、余目地域ではそういう話はなかったのか。</b>	
⇒ 審議会の中では、余目地域に関しては、小中一貫校の話はでなかった。	第二学区
<b>複数学級と複式学級の違いは</b>	
⇒ 複数学級は1学年で2クラス以上あること、複式学級は二つの学年を合わせ1クラスとなるものを言う。学級編成にあたっては、国、県で基準が定まっている。	第三学区

○【意見】施設に関すること

<b>統合した小学校が余目地区の中心に建てられたら、立谷沢の子どもたちはほんとに大変になる。中心的な四小付近への建設を望む。</b>	立川地域
⇒ 意見として、審議会に報告する。	
<b>山形市で新しい小学校を造ったら、周辺の分譲が進み児童数が増え、教室が足りなくなるような事態が起きているという話を聞いた。庄内町も人口増加の起爆剤となるよう、場所の選定については、教育関係者だけでなく、町の開発も絡ませて進めていった方がいいのではないかと。</b>	第三学区
⇒ 小学校をどこに建てるか、場所の選定などについては、具体的に何も話し合われていない。ご意見ということで今後の進め方に活かさせていただく。	



<b>今の余目中学校を小学校にして、一、二、三小の校舎として利用してはどうか。</b>	
⇒ 仮に一、二、三小を統合した場合は、1学年3学級、もしくは、4学級と想定している。3学級の場合は、6学年で18教室必要になるが、現在の教室の使い方として、一クラスごと全員で受ける授業の他に習熟度別に分かれてやる授業もあり、対応する教室が必要となる。他に特別支援学級用の教室も必要になってくるので、教室の数が足りなくなるのではないかと思われる。細かく試算したわけではないので、試算し、審議会に報告する。	第四学区
<b>今の余目中学校を小学校として使うことに賛成である。中学校は立川、余目、両地域の中間地点に建てることも検討してもらい。</b>	
⇒ 審議会の中でも、検討されてきたが、さまざま比較検討した結果、既存の余目中学校を長寿命化で利用することが望ましいとしてまとまったところである。このような意見があったことを審議会に報告する。	第四学区
<b>中学校は余目中学校を長寿命化改修して利用していくという案に賛成する。</b>	
⇒ 意見として、審議会に報告する。	立川地域
<b>小学校と中学校は隣合わせで建ててほしい。</b>	
⇒ 意見として、審議会に報告する。	第二学区

○【意見】コストに関すること

<b>小学校の学校整備について、段階を踏まず、当初より1校とした方が、経費的にも時間的にもいいのではないかと。段階的移行は無駄が多い。</b>	立川地域 第二学区
⇒ 意見として、審議会に報告する。	
<b>3つの小学校をすべて廃校として処理するとコストがかかるので、例えば二小の既存校舎を利用して対応はできないのか。児童数が減っている中で、全部の小学校を合わせても3クラスあれば足りるのではないかと。</b>	第一学区
⇒ 学校の規模からして、敷地が足りないと考えている。審議会では、どこの場所に建設するまでは具体的なものは出ていない。意見として伺っておく。	
<b>新しい校舎を建てる際は、メンテナンス等維持管理費がかからないような見通しをつけて造ってもらいたい。</b>	第二学区
⇒ 意見として、審議会に報告する。	

○【意見】統合に関すること

<b>小学校の整備の仕方については、パターン3（一、二、三小を一つの学校、四小と立小を一つの学校）を望む。</b>	立川地域 第四学区
⇒ 意見として、審議会に報告する。	
<b>小学校の学区の編成について、パターン2（一、二、三小、四小が1校、立小が1校）か、パターン4（すべての学校が1校）を望む。</b>	第四学区
⇒ 意見として、審議会に報告する。	
<b>一、二、三小を一つの学校として考えているようであるが、町内の小学校の児童数のバランスを考えると、一と三小、二と四小と立小を一緒にした方がいいのではないかと。</b>	第一学区
⇒ 審議会の意見では、施設の安全性の確保について急がなくてはならないことから、一、二、三小は優先的に対応、これは1校として進めるのが望ましいという考え方になっている。いただいた意見については、審議会に報告する。	
<b>小学校の整備の仕方について、パターン4の町内小学校1校は大変だと思う。立川地域のことを考えないと、若い夫婦など便利のいい場所へ引っ越してしまうのではないかと。</b>	立川地域
⇒ 意見として、審議会に報告する。	

<p>中学校の統合を最優先で進めるべきだ。現在の立川中学校の状況は、健全な教育環境に置かれていない。適正規模になっていないので、中学校の統合を先に行うべきである。小学校の議論は、そうこうしている間に1校でまとまるのではない。</p> <p>立川中学校の子どもたちが、もっとバイタリティある活動ができるように環境を整えてもらいたい。</p>	立川地域 第三学区
<p>⇒ 審議会の話し合いの中では、小学校と中学校、どちらを先に進めるべきか、まだ、具体的な意見は出ておりません。次回、審議会にこのような意見があったことを報告させていただきます。小学校については、令和11年度までの規模しかわからないので、今後どうなるか予想もつかない。ご意見としては、最初から1校とした方がいいのではないかとということであったが、今後の子どもの数を実際見たうえでの判断になると思うが、意見として、審議会に報告する。</p>	

○【意見】通学時間に関すること

<p>小学1年生の子どもが片道1時間の通学時間は酷である。</p>	第二学区
<p>⇒ 意見として、審議会に報告する。</p>	
<p>通学距離が30キロを超える地域も出てくる。子どもたちにとっては大きな負担になる。</p>	立川地域
<p>⇒ 審議会の中でも話は出ている。トイレ休憩、乗車時間の利用、登校、下校時間など最大限の配慮が必要だという意見が出ている。</p>	
<p>スクールバスで長時間かけて通う子が不登校になった際に改善するのが非常に困難だという話を聞いたことがあるが。</p>	第三学区
<p>⇒ 運行のやり方、経路地を減らす、最短で直接送迎するなど若干でも短縮できる工夫をしていきたい。</p>	

○【意見】スクールバスに関すること

<p>スクールバスについて、今後児童数も少なくなっていくことなどから、近い、遠い、多い、少ない関係なくすべてスクールバスでの対応をしてもらいたい。命に係わる部分である。</p>	第一学区
<p>⇒ 教育委員会の基本的な考え方は歩くことが基本である。歩くことで健康な体づくりができた、登校班を組むことで上下関係を養ったり、ちょっと辛いことも経験して我慢することを身に付けたりできることなどメリットの方が大きいと考えている。そのうえで、概ね3キロ以上の集落は通年バスで対応したり、概ね2キロ以上の集落は冬期間だけバスで対応しているのが現状である。（特別な事情がある集落も該当）今後もこの考え方でいかにについては、内部で検討する。</p>	
<p>スクールバスについて、全地域対応を進めてもらいたい。歩く機会を設けるためには、集落ごとの駐車場でなくて、近いところは代表で駐車場などを設定するなど考えられるのではないかと。</p>	第一学区
<p>⇒ 意見として何う。内部で検討する。</p>	
<p>スクールバスだけでなく、さまざまな方法を模索してほしい。</p>	第二学区
<p>⇒ 意見として、審議会に報告する。</p>	
<p>スクールバスの運行について、部活動も対応してもらいたい。余目中学校を長寿命化するという事で、余目地区の人にとっては異論がないと思うが、立川地区の人にとっては、いろんな思いがあると思うので、丁寧に進めていく必要があると思う。</p>	第一学区
<p>⇒ 部活動のスクールバス対応については、部活動の地域移行について検討している組織の方で話題となっている。今後、詰めていく内容になる。</p>	
<p>スクールバスの仕様について、長時間乗るのであれば、クッション性の高い座面にしたり、テレビモニターを設置して学習に役立てるとか、トイレが設置されているバスなどの導入も考えてみてはどうか。</p>	立川地域
<p>⇒ 今後の検討する。</p>	

<p>スクールバスについて、バスに乗り遅れてしまったり、体調が悪く朝はいけなかったが、昼頃から体調がよくなったとしても、学校に行くすべがないのが現状である。学校に行きやすい仕組みをつくってもらえるとありがたい。</p>	第三学区
<p>⇒ きめ細やかな運行で、保護者の方、お子さんになるべく負担がかからないような運行、学校への行き方について検討していきたい。意見として伺う。</p>	

○【意見】地域に関すること

<p>審議会で話し合われている内容がどうしても、余目に寄りがちな意見になっているのではないかと。</p>	立川地域
<p>⇒ 意見として、審議会上に報告する。</p>	
<p>小学校、中学校をすべて余目の中心へもっていくと、立川に住む人がいなくなる。</p>	立川地域
<p>⇒ 意見として、審議会上に報告する。</p>	
<p>立川地域から小学校、中学校がなくなると人がいなくなってしまう。さまざまな施設が、町の中心地に集中していて不平等感を感じる。</p>	立川地域
<p>⇒ 意見として、審議会上に報告する。</p>	
<p>立川地域のことを考えると、学校など大きなものがすべて、町場の方に集中し、過疎化に拍車をかける結果となっている。余目の中心部に学校を建てるというようなことは、立谷沢方面の子どもたちの負担になる。子どもの視点も頭に入れながら進めてほしい。</p>	第四学区
<p>⇒ 審議会上の中でも話し合われてきた内容であるが、このような意見があったことは、審議会上に報告する。</p>	
<p>小学校の場所を決める際に、町内の中間地点という話が出ているが、余目地域の町場の人はどう思うか。今までの学校統合の歴史的なところ考慮すると地域の感情的なものが絡んでくる。余目の人たちの意見も十分聞いた方がいいのではないかと心配している。</p>	立川地域
<p>⇒ 余目地域一小、二小、三小学区で意見交換会をしてきたが、小学校の建設の場所について、町内の中間地点に建設した方がいいのではという意見は出ていなかった。このような意見が出たことを審議会上に報告する。</p>	
<p>まちづくりのビジョンをつくるにあたって、小学校は学区割の大元である。地域づくりと小学校の在り方は深い関係にある。将来のまちづくりを考えていく場合、地域まちづくりと小学校の議論は一緒に進めていくべきでないか。</p>	第三学区
<p>⇒ まちづくり担当課と丁寧な打合せをしながら進めていきます。</p>	
<p>地域と学校とのつながりは、放課後子ども教室で子どもを通じて形成していけるのではないかと。</p>	第四学区
<p>⇒ 意見として、審議会上に報告する。</p>	

○【意見】その他

<p>小学校が統合することに関して、小学校以外で地域でやっていること、例えば、学童とか、そちらと連携、コミュニケーションをとった形でスムーズに進むようお願いする。</p>	第一学区
<p>⇒ 小学校の学校の地区の再編と、現在地域づくりで行っている地域の活動は別なものと捉えている。まちづくりセンターについてはそのまま残っていくのではないかと考えている。担当課と丁寧な打合せなどして調整していく。</p>	
<p>今後、児童生徒数が減少していくということで計画を立てているが、もし、増えた場合、また、人口を維持できた場合のことも計画しておいた方がいいのではないかと。</p>	立川地域
<p>⇒ 町の総合計画の人口推移にビジョンについては、さまざまな要因を加味したうえでの想定と考えている。審議会上には、人口が増えた場合ということでは資料提供していなかったため、話し合わなかった状況になる。</p>	



幼稚園について、今は別にして考えるという話があったが、小学校と幼稚園は一緒と考えた際は、用地の選定など考慮しないといけないのではないか。	第二学区
⇒ 幼稚園については、別の組織を立て検討していく必要があると考えている。	
質の高い教育が魅力ある学校につながると思う。	第三学区
⇒ 質の高い教育については、庄内町として目指してやっていきたい。	
さまざまな個性のある子どもがいる中で、みんなが一緒に過ごせる学校にしてほしい。（支援の必要な子どもも含む）	第三学区
⇒ その子の特性を見ながら、通常学級、特別支援学級、特別支援学校などどの場で学ぶことが、その子にとって一番いいか、保護者と話し合いながら決めているところである。それぞれのメリット、デメリットもあるので、保護者に十分説明したうえで、見学などもしてもらって判断してもらって進めている。	
近代的な学校もいいが、地域として助け合いができる、人が優しいなどそういう魅力の学校を造ってほしい。	第三学区
⇒ そういうことも重点的に力が入られるよう教育目標を考えていきたい。	
子どもたちの教育が大人の都合で振り回されることがないように配慮してほしい。	立川地域
⇒ 意見として、審議会上に報告する。	
若い世代、保護者となる世代の意見集約ができたらいいかと思う。	立川地域
⇒ 昨年度に実施したアンケート調査では、保護者世代を対象に回答をもらっているところであるが、地域意見交換会への参加を見ると保護者世代の参加は少なかったと思う。検討する。	
小学校の教育の過程で地域とのつながりが大切だと感じているが、通うのは子ども、実際教育を受けるのは子どもである。子どもを持つ保護者の意見を多く聞いて取り入れてもらいたい。	第二学区
⇒ 意見として、審議会上に報告する。	
今回の意見交換会については、子育て世代についてはもう少し関心があるものと思っていた。情報発信をうまくして多くの人に関心が集まるように工夫してほしい。	第一学区
⇒ 情報発信は非常に大切である。より努力していく。	
致道館の受験のことを考えると中学校の人数が予想よりも減る可能性があるのではないか。	第二学区
⇒ 今年度より受験が始まる。今現在では見当がつかないので、次年度以降、将来的なことを考えていきたい。	
学校に行きたくても、体調不良などでいけない子どももいる。リモートの授業をもっと活用してほしい。	第三学区
⇒ 現在もタブレットを活用し、リモートによる授業を受けている子どももいる。学校の様子がわかったり、学習面での不安が解消されたり、状況の改善などにもつながると考えるので、今後も進めていきたい。	
学童保育施設は学校施設内に設置してほしい。	立川地域
⇒ 担当課へ報告する。	
清河八郎など、地域に関する授業を取り上げ、郷土愛を育ててほしい。	第四学区
⇒ 教育基本目標の中で地域に関するところもあるので、統合したとしても引き継いでいきたい。	
1年生から6年生までと一緒に給食が食べられるような広いスペースのオープンルームを希望する。	第三学区
⇒ このような意見があったことを次回、審議会上に報告する。	
小学校、中学校の整備の話をする前に、第一学区の学童施設が古すぎるのでそちらを先に対応してもらいたい。	第四学区
⇒ 教育委員会とは別の課が担当になるが、その辺は連携をとって今後協議を進めていきたい。意見があったことを担当課に伝える。	
給食の無償化も進めてもらいたい。	第四学区
⇒ 今年度、半年間分は無償化ということで取り組んでいる。町の方でも今後、無償化に近づこう進めていきたいとは考えている。	

# 将来に向けた小学校整備についてのアンケートの実施と結果について

資料 4

## 1. アンケートの実施

対象者：町内小学校、幼稚園、認定こども園、保育園の保護者（一世帯一回答）

実施期間：令和5年9月12日から9月21日まで

実施方法：Googleアンケートフォームを利用し実施

内容：設問の内容については、別紙参照

## 2. アンケート集計

	パターン1		パターン2		パターン3の①		パターン3の②		パターン4		その他		回答者数
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
立川地域	4	5.6%	6	8.5%	5	7.0%	41	57.7%	14	19.7%	1	1.4%	71
（立谷沢）		(0.0%)		(0.0%)	(1)	(14.3%)	(3)	(42.9%)	(2)	(28.6%)	(1)	(14.3%)	(7)
（清川）		(0.0%)		(0.0%)	(1)	(50.0%)	(1)	(50.0%)		(0.0%)		(0.0%)	(2)
（狩川）	(4)	(6.5%)	(6)	(9.7%)	(3)	(4.8%)	(37)	(59.7%)	(12)	(19.4%)		(0.0%)	(62)
余目一小	14	11.3%	15	12.1%	59	47.6%	19	15.3%	15	12.1%	2	1.6%	124
余目二小	23	19.5%	13	11.0%	33	28.0%	19	16.1%	25	21.2%	5	4.2%	118
余目三小	12	13.2%	8	8.8%	33	36.3%	21	23.1%	15	16.5%	2	2.2%	91
余目四小	12	15.0%	25	31.3%	14	17.5%	4	5.0%	22	27.5%	3	3.8%	80
全体	65	13.4%	67	13.8%	144	29.8%	104	21.5%	91	18.8%	13	2.7%	484

※小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

パターン1：余目一小、余目二小、余目三小は統合して1校とする。**余目四小と立川小は、それぞれ1校とする。**

パターン2：余目一小、余目二小、余目三小、余目四小は統合して1校とする。**立川小は、そのまま1校とする。**

パターン3の①：余目一小、余目二小、余目三小は統合して1校とする。余目四小と立川小は統合して1校とし、**余目四小の校舎を使う。**

パターン3の②：余目一小、余目二小、余目三小は統合して1校とする。余目四小と立川小は統合して1校とし、**立川小の校舎を使う。**

パターン4：町内**5つ**の小学校を統合し**1校**とする。

(参考) アンケート通知配布世帯数

NO.	施設名	実世帯数
1	余目第一小学校	151
2	余目第二小学校	149
3	余目第三小学校	146
4	余目第四小学校	104
5	立川小学校	104
6	余目第一幼稚園	62
7	余目第二幼稚園	45
8	余目第三幼稚園	56
9	余目第四幼稚園	31
10	認定こども園 からふる	85
11	あまるめ保育園	120
12	すくすく保育園	86
		1139

※各施設の実世帯数でアンケートの案内の通知を配布しているため、世帯数が重複している可能性があります。一世帯一回答をお願いします。

## アンケート自由記載

「パターン1：余目一小、余目二小、余目三小は統合して1校とする。余目四小と立川小は、それぞれ1校とする。」を選択

地区・学区	意見
第一学区	・学校施設の老朽化が子供達が過ごす上でとても心配しています。児童数の減少もあるので、早めの統合を希望します。
第一学区	・統合することには賛成です。学童の迎えで遠くなることも考えられます。学童の終わる時間を遅くしてもらおうと助かる家庭も増えると思います。
第一学区	・校舎の耐震の面、歩道のない通学路を長時間歩く通学の面からも10年と言わず早急な対応が必要と考える。
第一学区	・10年後、各学校の生徒数にもよると思います。
第一学区	・統合により通学時間が長くなる可能性がある。夏の異常な暑さなどを踏まえ、スクールバスなどの通学時間の負担軽減の措置も講じて欲しい。
第二学区	・継続的に地域の意見を集約しながら最終的な方針を決定していくことが必要だと考える。10年後の統合を見据えているとすると、今回のアンケートの対象者のうち、令和3年度以降に生まれた子どもがいる世帯のみが当事者となる。当事者視点の回答が得たいのであれば、今後3年間以上は継続した意見集約を行う必要があると考える。
第二学区	・統合場所は何処になるのか。
第二学区	・スクールバスは積極的に取り入れてほしいです。町の再編に関する資料を見ましたが「身体が弱くなる」という意見があってびっくりしました。時代錯誤だと思います。真冬、真夏はさらに対象児童を広げるなど命を守るための判断をしてほしいです。 ・新校舎はできるだけ町の中心部がいいです。 ・一小付近は田んぼを通学することになり、防犯面で不安です。
第二学区	・何年後かに統合の考えには賛同しますが、たとえバス通学としても通学に時間がかかるのは子どもの負担はいかがなものでしょうか。
第二学区	・通学の仕方が気になる。なるべく歩く距離を長くさせたい。
第二学区	・各学校の老朽化もあり築年数も考えると統合して建て替えてもいい年数だと思う。
第二学区	・先の先のことを考えて、なるべく多くの方が納得できる形で進んでいくことを願っています。なによりも、未来の子どもたち、庄内町の発展のためにどうするべきかを、皆さんで考えるよい機会だと思うので、減少というマイナスで捉えず、これまで以上に一人一人が輝けるような、プラスの整備になることを望みます。
第二学区	・少子化だから仕方無い。
第三学区	・児童の減少に応じて、学校の統合は避けて通れないと思うし、老朽化の懸念もあるのであれば、尚更だと思う。一番に子どもたちの事を考えてもらい、みんなが納得出来る学校整備を期待する。
第三学区	・距離的に統合するには遠いと思った
第四学区	・特に立川地区は歴史深いところがあるので、地域住民と意見交換しながら話を進めていただきたいです。
第四学区	・友達と遊んだりする際、遊びに行ける距離ではないため。

「パターン2：余目一小、余目二小、余目三小、余目四小は統合して1校とする。立川小は、そのまま1校とする。」を選択

地区・学区	意見
狩川地区	・児童の減少に伴う統合は仕方ない事と思う。

第一学区	・子供がいないのだから、今までのしがらみ等にとらわれずに持続可能な小学校建設を望む。
第一学区	・立川は、範囲が広く、遠いところから通う子供は朝早い時間となる。立川は別の方が良いのではないかと考えます。
第一学区	・中学校になった時の事を考えて統合すべき。 ・余目は1～4小が一緒になるので、そのまま中学校も一緒の方がいいと思う。
第一学区	・統合は仕方ないと思います。資料を見ると、もし庄内町で小学校が1校になった場合、6年後6年生5クラス、5年生4クラスになります。1学年4クラス以上になるのは多いと思います。鶴岡市内など1学年4クラス以上ある学校もありますし、私自身鶴岡市内の小学校で3クラスありました。庄内町の子どもたちは、1学年1～2クラスでほとんどの子どもが幼稚園から一緒に、仲良くみんなで成長している印象があります。そして中学校で各小学校が一緒になった後も、それぞれ個性を発揮して仲良く過ごしているなど感じています。小学校の1学年のクラス数が多いと、そのよさが失われてしまうのではないかと感じました。幼稚園や中学校の学区はどうなるのかも気になります。
第一学区	・将来的に全小学校を統合するならば、なるべく既存の校舎の改修をせずに統合できるのがコスト面ではベストと考えます。そのため、比較的築年数の浅い立小を除く4校で統合するのがよいと思います。また、新しい土地を購入せずに二小のグラウンドに作るなど、なるべくコストを抑えられる方法を模索していただきたいです。
第二学区	・積極的に行うべきである。
第二学区	・中学校への進級も視野に入れ考えたとき、1小から4小までを統合した方が余目地区はスムーズに移行できるのではないかと思います。立小に関しては、距離的な負担や資料にあったように歴史的背景などを考慮するともう少し段階的に進めることは必要かなと思いました。築年数、児童数の推移にもよりますが、最終的には1校に統合する形もあるのかなと思いました。
第二学区	・余目二小もしくは三小の校地（現幼稚園用地含む）へ余目4校統合の小学校を建築。立川地域の住民、保護者が望むなら5校統合でも良い。用地は余目に。 ・10年後に段階的に統合では遅すぎる。
第二学区	・人間関係、環境の変化による不安が増えるだろうなあと思います。のびのび生活できなくなるのでは？と心配でした。
第三学区	・距離的には4小は距離があるが、どうせ分けるなら中学校で1～4小は一緒になるんだから4小だけ離さないで1校にした方が子供達も苦労しないと思う。
第三学区	・児童減少、校舎の老朽化は幼稚園も同じ事だと思いましたが小学校が統合になった場合幼稚園はどうなるのでしょうか？ ・同じ敷地に建て、小学校の中には児童保育所も一緒にあれば良いのではないのでしょうか。
第四学区	・余目一小から三小まで統合した場合、中学で一緒になる四小の子供達が馴染めない可能性があります。 ・今でも四小は人数が少なく、入学時や学年が変わる度にあるクラス分けの際、知っている子が少なく、登校するのを重荷に感じている子がいるようです。 ・歴史的背景や地域とのつながりも考えなければいけないのかもしれませんが、実際に学校で生活して学んでいかなければならない子供達の気持ちに寄り添って整備して頂きたいと思います。
第四学区	・資料を拝見しました。地域の繋がり歴史も大事かと思うが、児童数など考えた時に学校や保護者の負担も増えるのではないかと感じる。 ・5つの小学校が1校となると、距離的な負担も増えるので段階としては、元余目・元立川で区切るのが良いと思う。
第四学区	・中学校を見据えて考えると、第一から第四までを統合してしまった方が、子どもたち同士馴染みやすいと考えます。パターン1だと、第四学区の児童のみ中学で合流というかたちになり、6年間で築いた輪の中に馴染めるのか心配があります。立川中学校も余目中学校と統合するならばパターン1もあり得ると考えます。
第四学区	・特に4学区の児童が少なくなってくることを考えると、パターン2で一緒に統合していいのではないかと。

第四学区	・1.2.3小は1つの小学校へ統合、4小は地域のつながりや歴史的背景を考慮し、と記載してありますがそういった綺麗事を述べて前々からですが4小だけ常に省かれているのではと感じていました。たしかに立川に近い地区もありますが1.2.3小の統合は当たり前。じゃあ問題は4小だ。と常に4小だけ仲間はずれにされていて私たち親としては疎外感を感じます。子供たちも、もし1.2.3小の3校の統合から余目中学校へ入学した場合、1.2.3小の子達は小学校からの顔見知りがある中でもし4小、立川小の2校統合されてからの4小学区の子供たちが余目中学校へ入学したら同じように疎外感を感じることがあるのではないのでしょうか。なので私は1.2.3.4小4校の統合、立川は立川の2校の統合を希望致します。人数は少ない4学区ですが、子供たちのことを第一に考えたご判断をして頂ければと思います。
第四学区	・一、二、三、四小が統合するパターンが良いと思う。地域とのつながりは大事かもしれないが、歴史的背景は大人の都合ではないのか。それを尊重する意味が分からない。 赤淵新田に住んでいるが、仮に四小と立小が統合するとして、四小校舎を使うとなると、立小の子ども達は通うのが大変になるし、立小校舎を使うとなると、四小の子ども達は通うのが大変。よって学区の再編は是非考えて欲しい。また、通学バスも検討して欲しい。
第四学区	・余目第四学区は距離的に離れてるものの、いずれ余目中学で集うことを思うと、入学時に余目一～三（統合した場合）に対し一校だけ、と大きい集団に加入する形になり気になる。立川中が余目中と統合する形になるのであれば、余目と立川と区切りを無くすためにもパターン3でも良いかと思う。
第四学区	・最終的には町内全ての小学校を一つに統合する必要があるのでは無いかと思いますので、新小学校建設にあたっては、建設地の選定や校舎の規模など、完全統合に向けて配慮していただきたいと思いますが、立川町と余目町それぞれの歴史的背景を考えるといきなり一つに統合するよりは、一定の猶予期間(数年)を設けて、徐々に交流を深めながら、統合した方が良いのでは無いかと思います。
第四学区	・バスまたは保護者の送迎が良いと思います。
第四学区	・中学校で1～4学区が集まるのに、小学校だけ別というのはおかしいと思う。中学校になった時、4学区だけ仲間はずれにならないか心配。
第四学区	・旧庄内町と旧立川町のままの区分けで統合したら良いと思います。
第四学区	・各学校を統合することについては、児童数の減少が見込まれるという前提から賛同できます。しかしながら、小学校などの施設は災害時の地域の避難場所としての側面も持っていることを踏まえると、(特に一～三小エリア)については別途災害対応施設が必要になってくるのではないのでしょうか。このアンケートについて、実際にお子さんが該当年度に小学校に通われる予定の世帯全てへの実施ではない点(保育園在園児以外には実施されていないように見受けられます)も気になります。

**「パターン3の①：余目一小、余目二小、余目三小は統合して1校とする。余目四小と立川小は統合して1校とし、余目四小の校舎を使う。」を選択**

地区・学区	意見
立谷沢地区	・将来ある庄内町の子どものために、しっかりと検討して頂きたいです。宜しくお願い致します。
清川地区	・通学距離的に調度良いと思うから。
狩川地区	・小学校が1校になった場合、立谷沢地区に住んでいる方が余目の方面に通学するには時間がかかり過ぎる。子供達の負担も考える必要があると思う！！全てを余目地域を中心に考えないでほしい！
第一学区	・子どもの人数が少なくなっているため統合するならばなるべく早めに統合した方が良いと思います。1クラスより2クラスの方が学業面でも生活面でも良い意味で競い合ったり団結しあったり出来ると思います。また、中学へ上がるときも人間関係にあまり苦労しないで上がれると思うので統合するのは良いと思います。
第一学区	・出来るだけ早めに統合してくれればありがたい。



第一学区	・小学校統合には反対です。少人数でのびのび学が良さがあると思うし、いじめもこわい。徒歩での登下校も心身ともに成長には良いと思う。
第一学区	・4小と立川の併合で、文化の関係から反対している人がいれば、その意見は無視したほうがよい。改革が必要。
第一学区	・今回のアンケートを元に、できるだけ早く結論を出し建て替えをしていただきたいです。
第一学区	・老朽化問題があるのであれば早急に統合を検討し、校舎を新しくして欲しい。子供たちに安全な場所であって欲しいです。
第一学区	・統合し、自宅からの徒歩移動が現状より遠くなる場合は、バスの運行を天候や季節に関わらずお願いしたいです。また、学童も学校の近くに作るなどの配慮もお願いしたいです。
第一学区	・校舎が老朽化してる為、早めに進めていただきたいです。
第一学区	・子どもたちの人数の減少を考えると、統合は賛成です。統合時子どもたちが落ち着かなかったりするかもしれないという不安はありますが、人数が多い方がクラスも増えて良いかなと思います。
第一学区	・統合はあまりして欲しくはないです。
第一学区	・統合するのは良いが、どこに新校舎を建てるのか、学童はどこにあるのかが気になり。今の一小学区は範囲が広く、登下校するにあたって、また、学童に行くのに、今年のような猛暑の中や吹雪の中、低学年の子が重い荷物を持って通うには遠すぎる。 ・徒歩で15～20分程度の通学時間以上の範囲はスクールバスを出してほしい。今年のような猛暑や吹雪のなか、特に低学年の子は思い荷物を持ちながら通うのは過酷だと思う。かと言って、車で送迎は許可されていない話を聞いたので、改めて審議すべき事案として扱ってほしい。それでなければ、子供を安心して送り出す事ができない。
第一学区	・クラス替えできるぐらいの学級数があつた方が良くと思う。(子ども達の世界が狭くなってしまふ為) 統合して先生も集まれば、もう少し発達支援のクラスなど手厚く出来るのではないかなと思う。
第一学区	・通学路など交通の心配もあり、場所によっては保護者の勤務時間や、バス時間まで待たなければいけないなど朝の送り出しをお願いしなければならないなど、保護者にとって負担にならないような環境整備をお願いしたい。
第一学区	・1,2,3はある程度町内、4と立川は距離もあるので小学校をどこに設けるかで違ってくると思うが、通学、送迎を考えると妥当だと思う。
第一学区	・統合するのであれば新しく学校を建設してもらいたい。
第一学区	・場所
第一学区	・登下校の距離を考えると3が妥当だと思った。
第一学区	・4小と立川は余目町内から少し離れているため、その2校は一緒に、一番新しい4小を使用したらいいと思う。
第二学区	・10年あるのであれば、その間に立川と4小の地域的なつながりの部分も段階的に進めることは可能。子供の数が増えることは難しいと思うので、学校数はできる限り少ない方が良くと思う。
第二学区	・一小～三小が統合した場合、建設予定地はどこになるのでしょうか？
第二学区	・位置関係
第二学区	・老朽化・少子化等で小学校を統合しなければいけないのは理解できた。 ・今後は子供達の通学時間の問題が出てくると思う。今現在も一部の地区では行っている通年バス運行をほぼ全部の地区で行ってほしい。(＊特に夏場と冬場)

第二学区	<p>少子化になっているのは明確。</p> <p>今後先生達の人数不足が出て来るとデータで発表されている。</p> <p>いつまで統合するかしないかハッキリしなければならないと思う。</p>
第三学区	<p>・統合の話はこの先ありうらと思うので問題ないのですが、現状、バス運行で家並みのない集落がバスとなっていました。この夏、家並があっても30分以上の通学路を歩かせるのはコクなことだなど見てました。迎えも行けなかったので頑張ってもらいましたが、低学年は特に辛かった夏だったと思う。集落が広いところだと集落内でラインを引くのも難しいとは思いますが、もう少し加味して頂きたい。</p>
第三学区	<p>・学区によっては、徒歩での登校が困難になる可能性が予想されます。登下校のバス、タクシー等の車両配備を期待します。</p>
第三学区	<p>・複式学級にならないようお願いしたい</p>
第三学区	<p>・他の市町村に比べて校舎の老朽化が進行していると思うので、早い対応をすべきだと思います。</p>
第三学区	<p>・四、立川地区は近いのでそちらと統合。一、二、三は比較的近いと思うので統合のパターンを選択しました。</p>
第四学区	<p>・立川地区から見ると、小学校という地域の拠点とも言える施設が無くなるのはかなり重要な意味を持つことだと思う。第4学区も、町の中心部から少し離れていることもあり、似たような思いを持つ。</p> <p>・今年から実際に子供が入学し、少人数であることのメリットは感じるが、今後の財政や人員の効率的な配置などを考慮すれば、統廃合は理解ができる。ただ、町で小学校を1校にするのは早まらないで欲しいと思う。決して大多数の意見ではないと思うが、不登校やいじめ等々、様々な理由から環境を変えたい場合に難しくなる。</p>

**「パターン3の②：余目一小、余目二小、余目三小は統合して1校とする。余目四小と立川小は統合して1校とし、立川小の校舎を使う。」を選択**

地区・学区	意見
立谷沢地区	<p>・立川地区にも小学校は必要だと思う。</p>
狩川地区	<p>・余目、立川と見えない壁を感じる。同じ庄内町として立川を単独にせず統合を検討してほしいです。</p>
狩川地区	<p>・「新築」を設立されることについて1つ意見があります。設立予定地についてですが、余目1.2.3「だけ」を視点にするのではなく、予定地は、(いずれ一校になる考えであるならば)今後、立川町地区の統合も踏まえて(立谷沢方面の住人も考慮して)考えて欲しいです。アンケートにもあったが、せめて30分圏内の学校が望ましいことを考えると建設予定地は、第四学区あたりになるが、余目新田や常万や廻館辺りを視野に考えてはいかがでしょうか。是非ご検討頂けたら幸いです。また、いずれ一校に統合を視野にいれるのであれば、立谷沢から庄内町添津の庄内ゴルフ倶楽部の道が開通したら、立谷沢の人にとって余目までの道が随分短くなると思うのですが、その点も町として今後の事を踏まえて考えてはいかがでしょうか？</p> <p>・また1つ気になっていたのですが、中高一貫校があるなら、小中一貫校というのは難しいものなのでしょうか？もしそれが可能であれば、暫く2校にて(余目と立川の中学校の建物を利用して)やっつけていけるのでは？とも思いました。</p> <p>以上です。様々なことを勝手に記入して申し訳ございません。どうぞご検討よろしくお願い致します。</p>
狩川地区	<p>・ぜひ、統合して欲しい。これからの子どもの事を第1に考えてほしい。いい例として遊佐町のように。</p>
狩川地区	<p>・狩川地区に住んでいます。立谷沢地域からの通学を考えると町内の全てを一緒にして一校にする案は賛成できません。通学時間が余りにも長く大変です。どうか子供達の生活を1番に考えて未来に繋げてほしいと思います。</p>

狩川地区	・余目四小は体育館は新しいが校舎が古いので建て替えた方がいいと思います。
狩川地区	・学年役員が2回もまわってくるような状況は大変だと思う。子供にとっても友達がたくさんいたほうが競う仲間もいていいと思うので、統合の話早く進めてもらいたいです。
狩川地区	・状況を鑑み、統合は急務である。あくまでも優先すべきは子供の置かれている状況と考える。
狩川地区	・認定こども園、立川小学校、立川中学校、それぞれで交流があるのは、とても良い事だと思います。特に、中学生のお兄さんお姉さん達と、小学1年生と一緒にゲームしたりするのは、とても良い。そういう交流も残しておいてほしい。 ・今、少人数だが、特に困ったことはない（保護者の役員が早く回ってくる位か）むしろ、先生の目が行き届くので、ありがたいと思っています。今の場所に学校が残るなら、余目4小との統合は、仕方のないのかもしれませんが。保育園のとき一緒だったし…
狩川地区	・少子化により統合も十分分かるが、地域から学校が少なくなるということは、ますます人口減少に繋がると思う。立谷沢や清川がその例ではないか…。立川地域に一校は残していただきたい。
狩川地区	・この問題は中学校の統合と合わせ小中の連続性を考慮して検討するのが妥当と考えます。地域とのつながりや歴史的背景は大変難しい問題だと思いますが、この問題で最も重視すべきは子どもの教育環境をいかにしてより良いものにしていくかだと考えます。
狩川地区	・立川小学校周囲には役場や警察署、中学校などがあるので余目四小の校舎を使うよりも地域との連携がとりやすいのではないかと。
狩川地区	・子供が少なくなっているなかで、統合は仕方のない事だと思います。ただ、吸収される学校や地域の人はずっと寂しいものだから、お互いの学校の良いところ、繋いできた伝統などは、お互いを知る良いきっかけになると思うので、新しいものを築きながらも共に残していただきたいなと思っています。 ・校舎の選定については、残された校舎の活用方法や取り壊しも検討した上で、どちらを使うかを決めても良いのではないのでしょうか？町の中に、廃校として朽ちていく姿が残るのは、地域住民としてはいやです。
狩川地区	・人数が少ないので4小と立川小を統合し、4小学区の子は中学校も立川中学校に上がるようにしたらいいと考えます。そのため校舎も立川小を使ったほうが中学校との交流もしやすい
第一学区	・避けては通れない道。統合で母体が大きくなっても教育、学習、心のケアをしっかりとやってもらいたい。
第一学区	・常に町内に産まれてきた子供の人数を踏まえて、長期的な対応策を考えて頂ければ良いと思います。
第一学区	・統合云々の前にバス通学にしてほしい。徒歩40分50分なんて有り得ない。真夏や真冬もこんなに歩かせるなんてどうかしてると思います。
第一学区	・小学校の統合は子どもの数の減少からして、仕方のないことだと思います。しかし、子どもが減ったのなら1クラスの人数の基準を、より減らして、少ない子ども達を大事に育てていくべきだと思います。
第一学区	・登校距離が長いのはやめて欲しい。15～30分程度の通学時間にとどめる。(低学年のスピードで)その他はスクールバス。学童保育は学校に隣接させる。子供の安全を第一に考えて下さい。
第一学区	・立川地区にも児童がいたほうが良い
第一学区	・1クラスの上限人数をもっと少なくしてほしい。40人以上だと、教室はせまい、先生の負担も多い、感染症が心配など。30人上限くらいにしてほしい。
第一学区	・町内5つの小学校を統合するパターン4と悩んだ。パターン3でも、四小の子供が中学校で友達作りをするのが大変そう。
第一学区	・学校の距離、人数を考えると、これが妥当だと思いました。
第二学区	・手遅れになる前に統合してください。タイミングを合わせてPTAを廃止してほしいです。本来保護者と教員の共同組織のはずですが、保護者の負担ばかり大きく、毎年右倣えの惰性で続いていると思います。いい加減にしてほしいです。

第二学区	・統合した場合、登校時間が長い児童もいる事を考慮して頂きたい。 立川地区と四小地区が統合して、四小の建物を使った場合、立谷沢地区の児童の登校時間がとても長く感じる。
第二学区	・4小と立小だけ「丁寧に進める」「十分に考慮」の意味がわからない。気を使ってる？その2校こそ子供が少ないし早く統合すべき。ただそのうちこの2校はどうせ複式になるので建物がつぶれるまでは今のままでいい。余目地区1校制も仕方ないが場所はどこか、バスは対応できるのか、審議会の資料が足りないし、せっかくのアンケートなのでもっと質問すればいいのに。
第二学区	・子供の数が減り、勉強やスポーツ、交流事業などに影響がないか心配。
第三学区	・統合は仕方ないことかと思えます。しかし子ども達が、学年の人数が増えることで不利益のないような環境を作っていただければと思います。
第三学区	・児童減少で仕方ない事だと思えます
第四学区	・部落単位ではなく、学校からの距離で小学校を決められるといいと思う。

#### 「パターン4：町内5つの小学校を統合し1校とする。」を選択

地区・学区	意見
立谷沢地区	・余目地区に新しく建設するのであれば、徒歩通学の子供達が均等になるようにしていただきたいです。余目町内だと立谷沢・清川地区が特に通学時間が長くなるので少しでも考慮して欲しい。 ・地域の伝統も大事だと思いますが、その地区の行事だと思うので統合を阻む理由にして欲しくありません。統合してからも、地区の祭りなどで児童が早退等の対応でも良いと思います。
狩川地区	・立川も4小も、児童数の減少は避けられないので、全て合併がいいです。立谷沢地区は一部羽黒に統合してもらったほうが、近くて良いと思います。以前柏谷沢も立川に通ってましたし。
狩川地区	・生徒数が少なくなるのがわかっているので、新しい学校を新築するのであれば、一校にまとめた方が、良さそうだと思います。10年後と考えると立川、余目4も建て替え年数になると思います。
狩川地区	・今後の少子化が今すぐ止まるということは考えにくいので、20年、30年後の将来的なことを考えた時に同じような問題が起こらないように今のうちから1校にまとめたほうが良いと考えております。
狩川地区	・今後も少子化問題は続くと思います。段階的に統合するのもありますが、いずれまた統合を考えるなら、ここで5校を統合する方が、良いのではと思います。
狩川地区	・いずれ1校にしなければいけなくなると予想されるので、段階を踏まずに、1校でいいと思う
狩川地区	・こどもファーストをお願いしたい。まず歴史的背景を考えるのではなく、統合して1校になった上で、歴史的背景を鑑み活動していくのが望ましいと思います。
狩川地区	・6年後の児童数だけではなく、もっと先の児童数も考えるべき。予測で構わないので参考資料として示せないか。複数クラスが望ましいとする意見が多い中、庄内町に複数の小学校とした場合、統合した小学校校舎の建築から何年間複数クラスでいられるのか。一小から三小を統合してもこのペースで子どもが減少すればおよそ10年後の建築から10年足らずで1クラスになってしまうように思う。複数クラスを実現させようとした場合、庄内町が1つの学校と成らざるを得ないのは明らかです。
狩川地区	・立川地域も子供が不足していますので思い切って一つに統合したほうがいい。立谷沢、清川にはほとんど子供がいらないわけですから。多くの子どもの中で生活したほうが子供にとってはいいと思います。

狩川地区	・人が多い方が楽しいから。
第一学区	・学校を一つにまとめることで、それぞれの校舎の建て替えに使う予定だった費用を充実した教育環境を整えたりバス送迎をするなど、子供たちが安心安全に過ごし、意欲的に学び楽しめるようにして頂けると親としては嬉しいです。
第一学区	・今年は猛暑により臨時スクールバスの運行を実施して頂き、感謝しています。統合になった際は、冬季間も熱中症対策でのスクールバス運行時の程、適用町内会を広げて対応していただくと、ありがたいです。ご検討よろしくお願いします。
第一学区	・小中学一貫校にしたら良いのでは。
第一学区	・今想定されるよりも、更に未来を見据えた判断が必要かと思えます。酒田市で言えば、建てて数年で再統合となった学校もありました。数年単位で統合を繰り返すようでは多額の税金をかけて建てる意味がないと思えます。
第二学区	・小学生数の減少ペースを見ると、いずれは一校にせざるを得ないのでは。そうだとすれば、段階的に統合した場合と比較したときに、支出が大きくなりすぎるのではないかと。差額で何年持つのか疑問。
第二学区	中学校も統合したほうが良いと思えます。
第二学区	クラス数がある程度確保する事が必要だと思うので、4小・立小も全て一緒にしても良いと思う。また、教科担任制も視野に入れて欲しい。
第二学区	最終的にひとつにすることを考えているのであれば、最初から一つにした方がよい。できない理由があるなら仕方がない。
第二学区	・各小学校とも老朽化が目立ちます。子供たちが安心安全に授業を受けられる環境整備を早く整えて欲しいです。
第二学区	・10年後に統合では遅すぎる。もっと早く取りかかるべき。保育園も含めて幼稚園から高校まで、何か魅了やメリットがないと子どもをこの町で育てたいと思えない、子どもが増えない、少子化に歯止めがかからない。ちなみに、3歳児からの保育料無償化によって町立幼稚園のメリットは消え去りましたよ。本当は英語教育や音楽、運動レッスンに力を入れている私立幼稚園に入れたかった。この町で産みたい、子育てしたいと思えるような町づくりを今すぐして欲しい。10年後では遅い。
第二学区	・中学校の事、先の事も考えて
第四学区	・うちの子は四小ですずっと単学級で、特に人数が少ない学年で、親もPTA役員など強制的に他学年に比べると3倍もする必要があり負担が大きかった。子供は幼稚園からずっと同じメンバーで、仲良しメンバーは凝り固まってしまい、うまくやれない場合はずっとやり直しが効かない感じがあり、トラブルが起きて我慢しなければならなかった。クラスが複数あれば、クラス替えで気分も新たに頑張れる場合もあるし、もう少し過ごしやすい学校になると思っている。PTAの件は小中学共に、強制的に全員入会前提な制度を止めていただき、やりたい人が入会し、やりたい人が役員をし、人員が集まらないなら行事も活動も無くても構わない。
第四学区	・小さい頃は、少人数で、丁寧に教えていただいた方が良いと思えますが、少人数だと自主性や競争心に欠ける気がします。スポ少では、庄内町全ての地域から集まっていますが問題なく行われています。中学校に入ってからギャップ解消のために、はじめから一緒でも良いと思えます。
第四学区	・中学はすべての学区が集まって通うので、統合の話があるのであれば、小学生のうちから一校で考えて欲しい。なぜ第1～3ばかり統合になる案になってしまうのか、残念です。
第四学区	・平等性と経済性を考慮すると、段階的統合(1,2,3と4,立川を分けて統合していくマジョリティな考え)は無駄が多く、やるなら一息で進めるべきと考えます。中途半端が一番良くないです。
第四学区	・通学距離を考えると、5校を一つにするのは、スクールバス費用が多額になる点が問題。だが、分けておいたとて、さらに10年後には全体統合になるようであれば、初めから全体統合にするのがいいかと考えた。各学校の老朽化もあるので。



第四学区	・パターン3が良いと思うがいずれ子供の数が減って行くと思うので、パターン4。早目に対応してほしい。4年程前の教育長の説明では、小学校の統合は考えていない、と聞いたように思う。先々見据え、検討、実施してほしい。あわせて、中学校もどうする予定なのか？
第四学区	・小学校も一校、中学も庄内町一校に、スクールバスを小中一緒に同じ時間で同じバスで通学して、バスの台数も減るし、教職員もまとめて、給食のスムーズ化、相当な経費削減できると思う。経費削減できた分をより教育しやすい環境整備や、庄内町はより子育て環境が良くなる事で町に移住してくる人を増やし、町の活性化につながり、空き家問題などにも貢献できると思う。
第三学区	・パターン3と迷いました。結局冬などバス手配になるようなら、一緒にいいのではないかと考えました。同様に中学もすでにバスがあるので、小学から同じでいいのでは。子供は必ず減っていくので、どれだけ安全かつ大人が少数でしていけるのか。自分の家の周りも子供がいない世帯も沢山あり、他人事とは思えない問題ですよ。頑張りましょう。
第三学区	・出生数を見れば1校に統合するのが普通だと思う。2校にした所で、近いうちに1校になる話し合いをする事が必要になる。時間もお金も無駄ではないだろうか。
第三学区	・今すぐ決断すべきだと思う。
第三学区	・各幼稚園も、在籍している子どもたちが少ないため、そのままスライドで小学校に入学になります。私は、県外出身者です。小学校時代は、1000人近く在籍しているマンモス校でした。クラスでは学期ごとに班替えや席替え、2年に1回はクラス替えがありました。このワクワク感は、今でも鮮明に覚えています。我が家の子どもたちも、小学校や幼稚園にお世話になっていますが、同じメンバーで学校生活を共にするより、統合してクラス数も増えれば子どもたちにも楽しみが増え、また違う学校生活が送れるのではないかと思います。
第三学区	・子供が減り続ける未来しかないのであれば、初めからお金をかけて教育設備のしっかりした一校に統合したほうがいい。今の子供達が大人になった時に子育てに経済的負担が極力かからないようお願いします。

#### 「その他」を選択

地区・学区	意見
立谷沢地区	・統合するのはいいがスクールバスなどを充実させてもらいたい。
立谷沢地区	・嫁に来たからそもそもどこに余目の小学校があるのかもわからない。

# 【案】

庄内町立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置に関する  
方針の策定について（答申）

令和5年〇〇月

庄内町学校適正規模・適正配置審議会

## 目次

1	はじめに	・・・1
2	方針期間	・・・1
3	審議会の審議経過等	・・・1
4	庄内町立小中学校の現状と今後の見通し	・・・3
5	町民、保護者、教員アンケートの概要及び結果	・・・4
6	将来に向けた小学校整備のアンケートの概要及び結果	・・・10
7	庄内町における小中学校の適正規模・適正配置のあり方	・・・11
	（1）小中学校の適正規模の考え方	・・・11
	（2）小中学校の適正配置の考え方	・・・11
	（3）小中学校の適正規模・適正配置を実現するための学校整備	・・・11
8	学校整備の具体的な枠組（案）	・・・12
9	学校整備を進めるにあたっての審議会意見	・・・12
10	おわりに	・・・13

### 【参考資料】

- ・ 庄内町学校適正規模・適正配置審議会条例
- ・ 庄内町学校適正規模・適正配置審議会委員名簿
- ・ 諮問書（写）
- ・ 地域意見交換会会議録
- ・

## 1 はじめに

本町は、平成17年7月に旧余目町と旧立川町が合併し誕生しました。旧立川地域は合併以前から一部の小学校で複式学級が存在し、将来的にも解消が望めないことから小学校の再編が話し合われて来ており、合併後の庄内町教育委員会（以下「教育委員会」）でもその考え方を引継ぐこととし、保護者や地域住民との話し合いにより、庄内町の学校再編の第1弾として、平成21年4月に狩川小学校、清川小学校、立谷沢小学校の3校を統合し、庄内町立立川小学校を開校するという経緯を経てきました。

その後も、急激な人口減少や少子高齢化の進展により、子どもたちの教育環境に大きな変化が生じてきました。児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化に対応しながら、児童・生徒がより良い教育環境で学ぶことができるようにするために、令和3年12月に「庄内町学校適正規模・適正配置審議会（以下「審議会」）」が設置され、教育委員会から審議会に対し「庄内町立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置に関する方針の策定について」諮問がなされ、「20～30年後を見据えて、より良い学び（学校生活）ができる持続可能な学習環境をつくる」を審議の基本方針とし、答申まで8回にわたり慎重な審議を重ねてきました。

審議会は、保育園・幼稚園・小中学校の保護者、小・中学校校長会の代表者、各学校運営協議会の代表者と学識経験者等で組織され検討を進めてきました。学校は児童生徒の教育のための施設だけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有し、災害や地域の交流の場など様々な機能を併せ持つ役割もあることから、幅広く町民、保護及び教員の考え方や意見を把握するため令和4年6月から7月にかけてアンケート調査を実施し、審議会での議論を充実させてきました。

審議会での議論においては、それぞれの委員の考えや立場で様々な意見がありましたが、「子どもたちにとってより良い教育環境とするには、学校はどうあるべきか」を第一に、また、意見交換会で寄せられた意見についても十分考慮し、慎重に審議を行いました。

このたび、審議会における審議の結果をとりまとめましたので、ここに答申します。

## 2 方針期間

本審議会は今後20～30年後を見据え審議をしましたが、急激な人口減少や少子高齢化の進展、今後の学級編制基準や教育制度の変革、社会情勢の変化によって学校教育を取り巻く環境が大きく変化することも考えられることから、国の制度変更や児童生徒数の推移などにより必要に応じその都度見直しを行うこととします。

## 3 審議会の審議経過等

- 令和3年12月22日 第1回庄内町学校適正規模・適正配置審議会  
諮問「庄内町立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置に関する方針の策定について」
  
- 令和4年 2月18日 第2回庄内町学校適正規模・適正配置審議会  
(1)学校の適正な規模の考え方について

- (2) 学校整備にかかる費用について
- (3) その他

- 令和4年 5月20日 第3回庄内町学校適正規模・適正配置審議会
  - (1) 第2回審議会補足事項について
  - (2) 学校適正規模・適正配置に関するアンケート調査について
  - (3) その他

- 令和4年 6月～7月 町民・保護者・教員アンケート調査実施

- 令和4年10月28日 第4回庄内町学校適正規模・適正配置審議会
  - (1) アンケート調査の結果について
  - (2) 今後のスケジュールについて
  - (3) その他

- 令和5年 2月10日 第5回庄内町学校適正規模・適正配置審議会
  - (1) 意見交換 グループワーク
  - (2) その他

- 令和5年 5月19日 第6回庄内町学校適正規模・適正配置審議会
  - (1) 意見交換 グループワーク・全体討議
  - (2) その他

- 令和5年 7月 7日 第7回庄内町学校適正規模・適正配置審議会
  - (1) 意見交換 全体討議
  - (2) その他

- 令和5年 8月 基本方針に対する地域との意見交換（5カ所で開催）

期日	地区名	会場	参加者
8月16日	第一学区	第一まちづくりセンター	14名
8月24日	第三学区	第三まちづくりセンター	20名
8月25日	第二学区	第二まちづくりセンター	22名
8月29日	第四学区	第四まちづくりセンター	35名
8月31日	立川地域	狩川まちづくりセンター	29名

- 令和5年 9月 将来に向けた小学校整備アンケート調査実施

- 令和5年10月20日 第8回庄内町学校適正規模・適正配置審議会
  - (1) 意見交換 全体討議
  - (2) その他



#### 4 庄内町立小中学校の現状と今後の見通し

通常学級については、現在、余目第一小学校（1年生のみ）、余目第三小学校（4年生のみ）及び余目中学校以外は全ての学年で単学級（1クラス編成）となっています。将来的にもこの状況が続くものと予想されることから、児童生徒の教育環境について、長期的な視点で検討する必要があります。

##### (1)児童生徒数の現状と今後の見通し

年度	学年	余目第一小学校	余目第二小学校	余目第三小学校	余目第四小学校	立川小学校	計	余目中学校	立川中学校	計	小中計
2021年度 (令和3)	1年	32	33	29	24	23	141	151	36	187	
	2年	29	36	40	19	25	149	138	40	187	
	3年	43	33	28	17	25	146	149	32	181	
	4年	26	32	37	28	26	149				
	5年	41	33	31	15	19	139				
	6年	39	31	38	29	42	179				
	<b>計</b>	<b>210</b>	<b>198</b>	<b>203</b>	<b>132</b>	<b>160</b>	<b>903</b>	<b>447</b>	<b>108</b>	<b>555</b>	
2022年度 (令和4)	1年	26	32	31	24	15	128	138	40	178	
	2年	32	33	31	24	23	143	150	36	186	
	3年	30	36	39	18	25	148	146	40	186	
	4年	42	34	27	17	25	145				
	5年	27	32	35	28	26	148				
	6年	40	34	30	14	19	137				
	<b>計</b>	<b>197</b>	<b>201</b>	<b>193</b>	<b>125</b>	<b>133</b>	<b>849</b>	<b>434</b>	<b>116</b>	<b>550</b>	
2023年度 (令和5)	1年	36	31	19	18	29	133	123	18	141	
	2年	26	32	31	24	15	128	140	40	180	
	3年	32	33	31	24	23	143	151	35	186	
	4年	30	36	39	18	25	148				
	5年	42	34	27	17	25	145				
	6年	27	32	35	28	26	148				
	<b>計</b>	<b>193</b>	<b>198</b>	<b>182</b>	<b>129</b>	<b>143</b>	<b>845</b>	<b>414</b>	<b>93</b>	<b>507</b>	
2024年度 (令和6)	1年	37	25	37	19	25	143	122	27	149	
	2年	36	31	19	18	29	133	123	18	141	
	3年	26	32	31	24	15	128	140	40	180	
	4年	32	33	31	24	23	143				
	5年	40	36	39	18	25	148				
	6年	42	34	27	17	25	145				
	<b>計</b>	<b>203</b>	<b>191</b>	<b>184</b>	<b>120</b>	<b>142</b>	<b>840</b>	<b>385</b>	<b>85</b>	<b>470</b>	
2025年度 (令和7)	1年	31	31	25	17	16	120	120	25	145	
	2年	37	25	37	19	25	143	122	27	149	
	3年	36	31	19	18	29	133	123	18	141	
	4年	26	32	31	24	15	128				
	5年	32	33	31	24	23	143				
	6年	30	36	39	18	25	148				
	<b>計</b>	<b>192</b>	<b>188</b>	<b>182</b>	<b>120</b>	<b>133</b>	<b>815</b>	<b>365</b>	<b>70</b>	<b>435</b>	
2026年度 (令和8)	1年	30	27	24	16	15	112	123	25	148	
	2年	31	31	25	17	16	120	120	25	145	
	3年	37	25	37	19	25	143	122	27	149	
	4年	26	31	19	18	29	133				
	5年	26	32	31	24	15	128				
	6年	32	33	31	24	23	143				
	<b>計</b>	<b>192</b>	<b>179</b>	<b>167</b>	<b>118</b>	<b>123</b>	<b>779</b>	<b>365</b>	<b>77</b>	<b>442</b>	
2027年度 (令和9)	1年	24	23	15	19	15	96	120	23	143	
	2年	30	27	24	16	15	112	123	25	148	
	3年	31	31	25	17	16	120	120	25	145	
	4年	37	25	37	19	25	143				
	5年	36	31	19	18	29	133				
	6年	26	32	31	24	15	128				
	<b>計</b>	<b>184</b>	<b>169</b>	<b>151</b>	<b>113</b>	<b>115</b>	<b>732</b>	<b>363</b>	<b>73</b>	<b>436</b>	
2028年度 (令和10)	1年	28	27	16	12	16	99	113	15	128	
	2年	24	23	15	19	15	96	120	23	143	
	3年	30	27	24	16	15	112	123	25	148	
	4年	31	31	25	17	16	120				
	5年	37	25	37	19	25	143				
	6年	36	31	19	18	29	133				
	<b>計</b>	<b>186</b>	<b>164</b>	<b>136</b>	<b>101</b>	<b>116</b>	<b>703</b>	<b>356</b>	<b>63</b>	<b>419</b>	
2029年度 (令和11)	1年	18	23	15	15	13	84	104	29	133	
	2年	28	27	16	12	16	99	113	15	128	
	3年	24	23	15	19	15	96	120	23	143	
	4年	30	27	24	16	15	112				
	5年	31	31	25	17	16	120				
	6年	37	25	37	19	25	143				
	<b>計</b>	<b>168</b>	<b>156</b>	<b>132</b>	<b>98</b>	<b>100</b>	<b>654</b>	<b>337</b>	<b>67</b>	<b>404</b>	
2030年度 (令和12)	1年							118	25	143	
	2年							104	29	133	
	3年							113	15	128	
2031年度 (令和13)	1年							104	16	120	
	2年							118	25	143	
	3年							104	29	133	
2032年度 (令和14)	1年							97	15	112	
	2年							104	16	120	
	3年							118	25	143	
2033年度 (令和15)	1年							81	15	96	
	2年							97	15	112	
	3年							104	16	120	
2034年度 (令和16)	1年							83	16	99	
	2年							81	15	96	
	3年							97	15	112	
2035年度 (令和17)	1年							71	13	84	
	2年							83	16	99	
	3年							81	15	96	
<b>計</b>							<b>235</b>	<b>44</b>	<b>279</b>		

## (2)学校施設の現状と今後の見通し

庄内町では出生数が上り調子だった1960年代から第二次ベビーブームが終了する1970年代にかけて建築した小学校の老朽化が大きな課題となっています。

文部科学省が2013年3月にまとめた「学校施設の老朽化対策について」によると、全国の公立小・中学校のうち、鉄筋コンクリート造の学校施設を建て替えるまでの平均年数は42年となっています。庄内町では1960年代に余目第一・余目第二・余目第三小学校の建設から始まり全ての小学校校舎が建築後全国平均を上回る年数を経過している状況です。なお、令和2年度に余目第一小学校・余目第三小学校は全体改修に適さないと判断されたので近いうちの建て替えが必要となっています。

維持費用を削減しながら、将来にわたって子どもたちの学校における安全を確保するとともに、未来の教育活動に対応できるよう教育環境を充実させていくためには、老朽化の課題を早急に解決しなければなりません。建て替えや全体改修する学校施設の優先順位を検討し、計画的に実行していく必要があります。

教育委員会の試算では、仮に小学校全てを建て替える場合、体育館も含め（余目第四小学校体育館は除く）約72億円が必要になると見込んでいます。小学校全てを全体改修する場合には（余目第一・余目第三小学校は建て替え、余目第四小学校体育館は除く）約56億円が必要と見込んでいます。

なお、中学校は経過年数がそれほど経っていないため全体改修（余目中学校約17億円、立川中学校約8億円）をすることにより今後も長く使っていけると見込んでいます。

### 施設の建設年・経過年数について

施設名	校舎建設年		経過年数	屋内体育館建設年		経過年数
余目第一小学校	1963年	昭和38年	60年	1966年	昭和41年	57年
余目第二小学校	1964年	昭和39年	59年	1966年	昭和41年	57年
余目第三小学校	1964年	昭和39年	59年	1966年	昭和41年	57年
余目第四小学校	1976年	昭和51年	47年	2010年	平成22年	12年
立川小学校	1973年	昭和48年	50年	1974年	昭和49年	49年
余目中学校	1986年	昭和61年	37年	1986年	昭和61年	37年
立川中学校	1995年	平成7年	27年	1995年	平成7年	28年

※最も古い校舎の年を基準としている。

## 5 町民、保護者、教員アンケートの概要及び結果

審議会での議論を充実させることを目的に実施した本アンケートは、町民1,000人、保護者1,221人（保育園、認定こども園、幼稚園、小中学校）、及び教員140人の計2,361人を対象に実施し、1,455人（回収率61.6%）から回答をいただきました。

アンケートの主な問いに対する集計結果は、次のとおりです。

(1) あなたは町内の小・中学校に、特にどのような学習環境を望みますか。

「充実したコンピュータ等の ICT 設備」(594 人)、「多様な学びができる校舎設備」(592 人)、「思いっきり運動できる体育館やグラウンド」(480 人)の順となっています。

	町民	保護者	教員	合計	比率 (%)
全 体	576	1,886	207	2,669	100
(1) ゆとりある広さの教室環境	84	320	71	475	17.8
(2) 充実した図書環境	45	69	10	124	4.6
(3) 充実したコンピュータ等の ICT 設備	132	431	31	594	22.3
(4) 多様な学びができる校舎設備	124	421	47	592	22.2
(5) 安全で快適に過ごせる学習環境	104	264	36	404	15.1
(6) 思いっきり運動できる体育館やグラウンド	87	381	12	480	18.0

(2) 学校は学力を定着させる場であるとともに様々な学びの場でもあります。あなたは町内の小・中学校に、子どもの教育活動の場として特にどのようなことを望みますか。

「多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会」(1,065 人)、「学校と保護者・地域社会が連携した教育活動」(464 人)、「同学年多人数で広い人間関係の中で切磋琢磨できる場」(424 人)の順となっています。

	町民	保護者	教員	合計	比率 (%)
全 体	561	1,788	205	2,554	100
(1) 学校と保護者・地域社会が連携した教育活動	134	276	54	464	18.2
(2) 子どもの希望に合う部活動	64	286	9	359	14.1
(3) 同学年多人数で広い人間関係の中で切磋琢磨できる場	96	298	30	424	16.6
(4) 同学年少人数で深い人間関係を築ける場	47	173	22	242	9.5
(5) 多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会	220	755	90	1,065	41.7

(3) 小学校の1学年あたりの学級数は、何学級が望ましいと思いますか。

「2学級」(970人)、「1学級」(206人)、「3学級」(173人)の順となっています。

	町民	保護者	教員	合計	比率(%)
全 体	318	1,022	115	1,455	100
(1) 1学級	49	155	2	206	14.2
(2) 2学級	189	708	73	970	66.7
(3) 3学級	43	97	33	173	11.9
(4) 4学級以上	20	24	4	48	3.3
不 明	17	38	3	58	4.0

(4) 中学校の1学年あたりの学級数は、何学級が望ましいと思いますか。

「4学級以上」(794人)、「3学級」(289人)、「2学級」(244人)の順となっています。

	町民	保護者	教員	合計	比率(%)
全 体	318	1,022	115	1,455	100
(1) 1学級	14	34	0	48	3.3
(2) 2学級	75	156	13	244	16.8
(3) 3学級	64	184	41	289	19.9
(4) 4学級以上	141	599	54	794	54.6
不 明	24	49	7	80	5.5

(5) 小学生の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。

「30分未満」(1,001人)、「15分未満」(253人)、「45分未満」(155人)の順となっています。

	町民	保護者	教員	合計	比率(%)
全 体	318	1,022	115	1,455	100
(1) 15分未満	50	189	14	253	17.4
(2) 30分未満	211	704	86	1,001	68.8
(3) 45分未満	38	103	14	155	10.7
(4) 60分未満	11	16	0	27	1.9
(5) 60分以上	0	1	0	1	0.1
不 明	8	9	1	18	1.2

(6) 中学生の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。

「30分未満」(979人)、「45分未満」(273人)、「15分未満」(109人)の順となっています。

	町民	保護者	教員	合計	比率(%)
全 体	318	1,022	115	1,455	100
(1) 15分未満	16	88	5	109	7.5
(2) 30分未満	198	707	74	979	67.3
(3) 45分未満	67	177	29	273	18.8
(4) 60分未満	29	33	4	66	4.5
(5) 60分以上	1	4	0	5	0.3
不 明	7	13	3	23	1.6

(7) 【小学校】少子化と学校施設の老朽化が進行している状況において、財政の健全化を進めながら地域の拠点でもある学校施設の安全性を確保するとともに、未来の教育活動に対応できるよう教育環境を充実させていくためには、どのような考え方で学校整備を進める必要があると思いますか。

「学校数を減らして、重点的に投資して建て替え」(1,068人、73.4%)、「小学校5校をすべて建て替え又は全面改修」(275人、18.9%)の順となっています。

		(1) 小学校 5校をすべて 建て替え又は 全面改修	(2) 学校数を 減らして、重点的 に投資して改修	(3) その 他	不明	総計
全体		275	1,068	79	33	1,455
(比率%)		18.9	73.4	5.4	2.3	100
町民	第一学区	9	53	5		67
	第二学区	8	42	7	2	59
	第三学区	8	31	5	2	46
	第四学区	7	44	2		53
	狩川地区	4	45	5	1	55
	清川地区	2	15	3		20
	立谷沢地区		12		1	13
	学区地区不明	1	1	1	2	5
保護者	第一学区	58	184	7	7	256
	第二学区	40	168	6	4	218
	第三学区	55	160	10	4	229
	第四学区	36	111	7	3	157
	狩川地区	22	92	14	2	130
	清川地区	1	10	2		13
	立谷沢地区	1	8			9
	学区地区不明	1	8		1	10
教員	立川小	3	9	1		13
	余目一小	4	11	2		17
	余目二小	7	9			16
	余目三小	2	13	1		16
	余目四小	1	12			13
	立川中		11	1	2	14
	余目中	5	19		2	26

(8) 【中学校】少子化と学校施設の老朽化が進行している状況において、財政の健全化を進めながら地域の拠点でもある学校施設の安全性を確保するとともに、未来の教育活動に対応できるよう教育環境を充実させていくためには、どのような考え方で学校整備を進める必要があると思いますか。

「学校数を減らして、重点的に投資して改修」(788人、54.2%)、「中学校2校をすべて改修」(545人、37.5%)の順となっています。

		(1) 中学校 2校をすべて 改修	(2) 学校数を 減らして、重点的 に投資して改修	(3) そ の他	不明	総計
全体		545	788	75	47	1,455
(比率%)		37.5	54.2	5.2	3.2	100
町民	第一学区	16	46	4	1	67
	第二学区	20	33	5	1	59
	第三学区	10	29	5	2	46
	第四学区	16	36	1		53
	狩川地区	18	32	4	1	55
	清川地区	9	9	2		20
	立谷沢地区	6	6		1	13
	学区地区不明	1	2	1	1	5
保護者	第一学区	100	141	8	7	256
	第二学区	67	137	8	6	218
	第三学区	87	121	11	10	229
	第四学区	68	77	4	8	157
	狩川地区	64	50	15	1	130
	清川地区	5	6	1	1	13
	立谷沢地区	5	3		1	9
	学区地区不明	2	7		1	10
教員	立川小	4	8		1	13
	余目一小	6	8		3	17
	余目二小	6	9	1		16
	余目三小	7	8	1		16
	余目四小	6	7			13
	立川中	7	4	3		14
	余目中	15	9	1	1	26



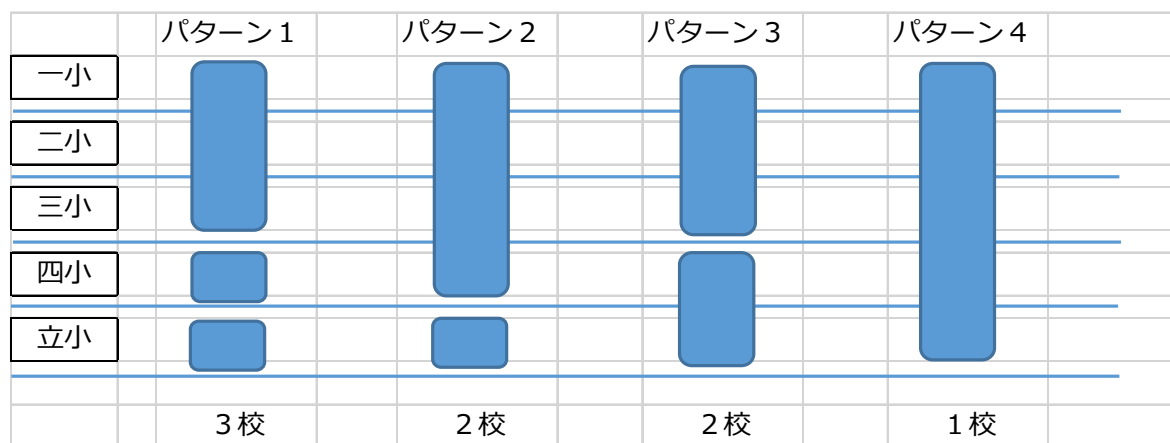
## 6 将来に向けた小学校整備のアンケートの概要及び結果

およそ 10 年後の小学校はどのような学校の組み合わせが望ましいかを目的に実施した保護者（保育園、認定こども園、幼稚園、小学校）アンケートには、保護者 484 人から回答をいただきました。集計結果は、次のとおりです。

パターン 3 の①（144 人、29.8%）、パターン 3 の②（104 人、21.5%）、パターン 4（91 人、18.8%）の順となっています。

	パターン 1		パターン 2		パターン 3 の①		パターン 3 の②		パターン 4		その他		回答者数
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
立川地域	4	5.6%	6	8.5%	5	7.0%	41	57.7%	14	19.7%	1	1.4%	71
(立谷沢)					(1)	(14.3%)	(3)	(42.9%)	(2)	(28.6%)	(1)	(14.3%)	(7)
(清川)					(1)	(50.0%)	(1)	(50.0%)					(2)
(狩川)	(4)	(6.5%)	(6)	(9.7%)	(3)	(4.8%)	(37)	(59.7%)	(12)	(19.4%)			(62)
余目一小	14	11.3%	15	12.1%	59	47.6%	19	15.3%	15	12.1%	2	1.6%	124
余目二小	23	19.5%	13	11.0%	33	28.0%	19	16.1%	25	21.2%	5	4.2%	118
余目三小	12	13.2%	8	8.8%	33	36.3%	21	23.1%	15	16.5%	2	2.2%	91
余目四小	12	15.0%	25	31.3%	14	17.5%	4	5.0%	22	27.5%	3	3.8%	80
<b>全体</b>	<b>65</b>	<b>13.4%</b>	<b>67</b>	<b>13.8%</b>	<b>144</b>	<b>29.8%</b>	<b>104</b>	<b>21.5%</b>	<b>91</b>	<b>18.8%</b>	<b>13</b>	<b>2.7%</b>	<b>484</b>

※小数点以下第二位を四捨五入しているため、合計が100%にならないものもあります。



□パターン 1：余目一小、余目二小、余目三小は統合して 1 校とする。余目四小と立川小は、それぞれ 1 校とする。

□パターン 2：余目一小、余目二小、余目三小、余目四小は統合して 1 校とする。立川小は、そのまま 1 校とする。

□パターン 3 の①：余目一小、余目二小、余目三小は統合して 1 校とする。余目四小と立川小は統合して 1 校とし、余目四小の校舎を使う。

□パターン 3 の②：余目一小、余目二小、余目三小は統合して 1 校とする。余目四小と立川小は統合して 1 校とし、立川小の校舎を使う。

□パターン 4：町内 5 つの小学校を統合し 1 校とする。

## 7 庄内町における小中学校の適正規模・適正配置のあり方

### (1) 小中学校の適正規模（1学年あたりの学級数）について

**【小学校】基本は複数学級が望ましい。ただし、場合によっては、地域の状況により単学級も考えられる。**  
**【中学校】複数学級が望ましい。**

#### 《審議会意見》

- ① 町民、保護者、教員アンケート調査においては、小学校では2学級を求める意見が66.7%、中学校では4学級以上を求める意見が54.6%と最も多く、複数学級を求める傾向にある。
- ② 少人数学級の良さは認めるものの、多くの子と切磋琢磨し、自分と異なる意見に触れることでの成長が期待されること、また、クラス替えによる人間関係の調整がとれるという観点を重視し複数学級が望ましい。

### (2) 小中学校の適正配置（通学時間）について

**【小学校】通学時間は、30分程度が望ましい。ただし、教育環境が整った学校であれば、多少の時間の延長は許容範囲である。**  
**【中学校】通学時間は、〇〇分程度が望ましい。ただし、教育環境が整った学校であれば、多少の時間の延長は許容範囲である。**

#### 《審議会意見》

- ① 町民、保護者、教員アンケート調査においては、30分未満を求める意見が、小学校では68.8%、中学校では67.3%と最も多くあり、30分を目安にしているようである。
- ② 通学時間は短いことに越したことはないが、スクールバスの活用により通学時間に配慮しつつも、現在の通学時間より多少長くなっても通いたくなるような教育環境、学校施設整備をしていくことが望ましい。

### (3) 小中学校の適正規模・適正配置を実現するための学校整備について

**【小学校】20～30年後を見据えた場合、1校ないし2校が望ましい。ただし、施設の安全性の面から優先順位を定め段階的に整備することが望まれる。なお、段階的な整備にあたっては学区の再編も視野に入れて考えて行くべきであるが、進め方によっては、単学級となる学校の存続もあり得る。**  
**【中学校】1校が望ましい。校舎は既存の余目中学校校舎を長寿命化改修し、統合することが望ましい。**

#### 《審議会意見》

- ① 町民、保護者、教員アンケート調査においては、学校数を減らして重点的に投資して建て替え（又は改修）という意見が小学校では73.4%、中学校では54.2%と最も多く、重点的

整備を求める傾向にある。

- ② 20年後、30年後の未来の視点と現在の子どもたちの教育の視点を両方含め考えなければならず、そのためには段階的な整備も必要である。
- ③ 小学校においては、施設安全性の確保の観点から余目一小、余目二小、余目三小は優先的に対応すべきである。児童数の減少が進めば最終的に1校と思われるが、移行にあたっては段階的に整備統合することが望ましい。
- ④ 将来に向けた小学校整備のアンケートでは、

- ⑤ 中学校においては、立川地域、余目地域両地域の生徒、保護者の負担を軽減するために中間的な場所に新たに校舎を建設する意見があったり、余目地域に新築することが望ましいとの意見もあったりしたが、新たに校舎を新築する場合と既存余目中学校を長寿命化し使用する場合を比較検討し、現余目中学校の施設の大きさ、統合した場合のスクールバスの必要台数、既存社会教育施設の利用しやすさ及び将来的な小学校建設などの財政面を考慮し、既存の余目中学校校舎を長寿命化改修し使用することが望ましい。
- ⑥ 余目四小と立川小を義務教育学校、又は小中一貫校にという意見もあるが、歴史的背景や児童生徒数の推移の予想から先細りが見込まれることから、中学校は町内1校が望ましい。

## 8 小学校整備の具体的な枠組(案)

### 9 学校整備を進めるにあたっての審議会意見

小中学校の適正規模・適正配置を進めるにあたって、より良い学校整備となるよう、教育委員会に対し、特に留意してもらいたいこととして、審議会が出された意見を次のとおりまとめます。

#### (1)学校施設整備への要望

- ①学校施設整備にあたっては、ゆとりある教室の広さ、鉄棒などの遊具も含めて運動等に取り組める環境、着替えする更衣室、様々な場所でタブレットを使って学べる通信環境の整備が望まれる。
- ②
- ③

#### (2)児童生徒への配慮

- ①児童生徒等の学習環境や生活環境などが大きく変化するため、子どもたちや保護者の負担感を十分受け止めながら、新たな学校生活に戸惑いが生じることのないよう十分配慮し進める

べきである。統合する際は、時間をかけて、事前に人的交流を深めるなど、できるだけスムーズに移行できるよう配慮が必要である。

②

③

### (3)通学への配慮

①長時間スクールバスに乗車する場合には、発達段階を考慮し、トイレ休憩の対応など配慮する必要がある。また、始業時間を若干遅らせることや下校時間を早めること、部活動の送迎については、やり方を工夫することが必要である。部活動においては、活動の場所を常に余目地域でなく、拠点化するか交互に行うなど一日の教育課程を少し工夫していくことにより、生徒の負担を軽くする配慮が必要である。

②

③

### (4)放課後子ども教室への配慮

①現在、各まちづくりセンターを中心に実施し好評を得ている。学区等枠組みを再編した際は、現在の枠組みのまま実施するのか、それとも新たな学区で実施するのかなど課題があり、地域とのつながりもあるので地域や保護者を交え、丁寧に話し合いをしてほしい。

②

③

### (5)魅力ある学校づくり

①

②

③

### (6)その他

①

②

③

